



「人にやさしい街はどんな街？」このテーマを「人の考え方や世の中のしくみ」という切り口からとらえ、取り組んでいた市民ワーキングの提言がまとまりました。今号からは、皆さんに議論していただいた内容をお知らせします。なお、紙面の都合で、一部要約してありますのでご了承ください。

外に出るためには：

高齢者が外に出て人と交わる場所を「憩いの場」とし、そこで何をするかを「活動」として分類しました。

(1) 「憩いの場」の条件

- ① 気軽に安全に行ける。
- ② 常会ごとに設置され、よく管理され、常に開放されている。
- ③ 高齢者が子供たちや若いお母さんとふれあうことができる。
- ④ 簡易休憩所や便所、ベンチのほか、スポーツのできる場が併設されている。
- ⑤ ヘルストロンが設置されている。

(2) 活動について

- ① 高齢者の活動の場としては「老人

市民ワーキング活動報告1

《高齢者グループ》

廣中孫市 小林春代 鈴木 功 平野弥一 足立秀治
石川慶次 鈴木正雄 北村謙二 石川久代 水野ノリ子
林 節子 吉見成実 大竹正人 岡田隆二

【敬称略】

《テーマ》

外出と情報と高齢者対策

社会参加で 心身の健康の保持を

より豊かな老後を送るためには、心身の健康が何よりも必要です。年齢とともに衰えがちになる健康を保持するには、社会に積極的に参加し、社会と常に係わりを持つことが必要です。家から外に出て、人と接し、

話をし、体を動かすことが老化の予防や健康の保持につながります。

そこで次の三つの課題について、話し合いました。

- 高齢者が外に出るためには：知るためには：
- 外に出るきっかけとなる、情報を不安、寝たきりや痴呆のある虚弱高齢者対策について

クラブ」「シルバー人材センター」

「生涯学習」などがあり、多くの皆さんがそれぞれ加入・登録して活躍しています。

しかし、未加入者や未登録者がまだ多数いることも否定できません。また、不参加の理由も「性格的に合わない」「手続きが面倒」などとさまざまです。

そこで、申込手続を簡易にし、少人数あるいは個人単位の「活動」を提供して選択の幅を拡げ、高齢者自身が自由に選べるようにすることが必要です。

